

令和5年度 学校評価表【自己評価】						三次市立甲奴小学校											
経営理念(ミッション・ビジョン) ・よりよく積極的に生きるための基盤として「郷土を誇りに思う心」を育て、地域や社会に貢献しようとする意欲や態度をもった人材を育てる。 ・変化の激しい社会の中で、グローバルな視点を持ち、国籍や互いの立場の違いを超えて、協調し協働して生きていくことができる力をつける。 ○育成したい資質・能力 ①「コミュニケーション能力」 ②「課題を発見し解決する力」 ③「乗り越える力」						＜学校教育目標＞ 「文武両道」 すすんで きたえ みがき のびる ～社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子どもの育成～ ＜めざす学校像＞ ○すすんで……………子供の主体性を伸ばす学校 ○きたえ・みがき……………個々の持ち味を発揮させる学校						＜甲奴中学校区のめざす子供像＞ 「ふるさと甲奴を誇りに思い、自らの未来を切り拓いていく子供」 ＜甲奴小のめざす子供像＞ 「文武両道」をめざす子供 ☆自分が好き…夢(目標とする姿)を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供 ☆友だちが好き…友だちのよさを見つけ、自ら進んで一緒に働き、遊び、学ぶ子供					
評価計画						自己評価										学校関係者評価	
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標 (効果を見とる目安)【担当】	目標 値	7月			12月			結果の分析	改善策	評価	コメント		
						達成値	達成度	評価	達成値	達成度	評価						
確かな学力の育成	全国水準の学力をつける(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力の育成)	○基礎的・基本的知識・技能の習得と定着	・基礎的な知識や技能の習得・定着を図る。 ・パワーアップタイムの充実に努め、基礎的な学力向上を図る。	・評価テスト(国語・算数)で得点が80点を超える児童の割合【石川・岡野】 ・パワーアップタイムでの個人目標を達成した児童の割合(児童自己評価) ・パワーアップタイムの実施率、充実度合い(指導者自己評価)【野曽原】	70% 80%	72.8%	104%	A				・国、算の評価テストについては、目標値の70%を上回ることができた。しかし、学年差がかなりあり一定程度の基礎学力が十分あるとは言い切れない実態がある。また、全学年国語科より算数科の方が低い割合となっている。一応目標は達成しているが、学年によっては、5割から6割程度となっており課題が同居る。 ・計画的にパワーアップタイムに取り組むことができ、指導者評価の実施率と充実度合いは、100%であった。学期途中に指導者同士で進捗状況と交流し合ったり、実施しやすい様に日課を変更したりしたことなど大きい要因と考えられる。しかし、児童が自己目標を達成できたかどうかについては、65.3%と目標値をかなり下回る結果となった。自己目標の果たせ方について指導と明確な目標が持てるよう内容を考える必要があった。	・評価テストについては、かなり学年差があるため、今後も個別指導及び児童実態に合った授業改善を図っていく。また、全国学テの分析で明らかになった課題は、全校で共通して取り組む事柄の共通認識を図り、確実に行う。 ・計算や漢字の書き取りなどをより確実に身に付けさせるため、今後も計画的に実施していく。また、パワーアップタイムについての児童目標の設定について指導者が共通認識をもち取り組ませ、学期途中に実施状況や実態交流を行い、三次市学力テストなどに向けて計画的に取り組みを進める。				
		○対話のある授業づくりによる思考力・判断力・表現力の育成	・外国語教育での単元開発の手法(単元ゴール:ファイナルタスク)を算数科等に活かす研究を推進し、授業改善を行う。	・単元ゴールを明確にした授業の充実度合い。(指導者による相互評価)【長手】	80%	93.1%	116%	A				・単元ゴールを明確にした単元及び教材研究に取り組み、授業改善を図っていった成果が表れ、指導者による相互評価は9割以上の肯定的な評価という結果になった。児童にめざす姿や力(ファイナルタスク)を明確にし共通認識を持たせて授業を行った成果だと考える。しかし、外部からの評価と本校との間には約1割の差が見られた。本校の相互評価は比較的高かったが、めざしている主体的な授業が見とれないなどがあったと考える。また、授業後の研修で何が課題であったのか、自分ならどのような改善策を行ったという視点での協議が十分でなかったことも要因の一つと考える。	・今後も単元ゴール(ファイナルタスク)を意識した授業改善を図っていく。また、授業後の校内研修をより充実させ、研修で挙げられた課題を改善する授業作りに取り組む。				
		○学びに向かう力の育成	・指導者が相互に授業参観をし合い、児童が主体的に学び合う学習リーダーを中心とした授業作りを行う。	・リーダーノートの作成と充実度(冊数・ページ数)(指導者自己評価)【土井】 ・指導者が互いに授業を見合い、学習リーダーを中心に自ら進んで学習に取り組む授業の度合い(指導者による相互評価)【長手】	80%	90.6%	113%	A				・学級、児童実態に応じたリーダーノート作成に取り組む事ができ、9割近い結果となった。児童がリーダーノートを読みやすいように支援をする等もできており充実度もちろん高い。しかし、完全実施できていない学年もあるため、校内研修でリーダーノートの実践交流や指導者同士の授業参観を行う等の取組が必要である。 ・算数科を中心とした学習リーダーが浸透してきており、児童自ら主体的に学ぶという意欲や雰囲気などの学年にも見られ、指導者の相互評価も9割以上という高い結果となった。まだ、全学年の相互評価が行えていないため、今後もより一層学習リーダーを中心とした授業作りを進めていく。しかし、児童に対しては具体的な支援が必要である場面も見られる。意欲はあるが上手いかない事に戸惑っている児童も見受けられるため、校内研修で学習リーダーの実態交流や子連れ参観を行う必要がある。	・定期的に校内研修において、リーダーノートの実践交流を行い、リーダーノートの作成及び充実を図る。 ・学年実態及び児童実態に応じた学習リーダーを育成する取り組みを進める。また、児童が形式的であっても授業を進める事がある程度主体性の向上につながると考えて、算数科以外にも他教科へリーダー学習を広げていく。また、子連れ参観などを計画的に行い、児童主体の授業改善を図っていく。				
		豊かな心の育成	規範意識を高め、思いやりの心を育成する	○規律のある学校生活 ・あいさつ ・無言集合	・学期ごとにあいさつテーマを焦点化し、徹底した取り組をする。 1学期テーマ「じぶんから」 2学期テーマ「だれにでも」 3学期テーマ「いつまでも」 ・全校朝会と一斉下校時に無言集合の徹底を図る。「無言集合」の呼びかけボードを掲示し、意識を高める。	・「あいさつ」に関する生活アンケートで肯定的に自己評価する児童の割合、及び教職員の見取り調査【信野・カ石】 ・「無言集合」に関する生活アンケートで肯定的に自己評価する児童の割合、及び教職員の見取り調査【信野・カ石】	80% 80%	95% 100%	119% 125%	A A				あいさつについては、高い数値結果がでているので指導の成果が出ているといえる。1階廊下に設定している「あいさつの木」も「見える化」の取り組みとして児童にとっては有効なツールになっているようである。 無言集合はここ2～3年では最高に良い状況と言える。児童も無言集合の心地良さが体感出来ているのだらう。	三次市で一番大きな声であいさつ出来る学校を名実ともに確立していきたい。そのために、「あいさつの木」に代表される「見える化」を継続していきたい。そのためにはねばり強く指導する指導者の気構えが重要と考える。無言集合を継続させるためには、「呼びかけボード」提示を指導者が指導ツールと認識し利用していくことも重要でる。そしてやがては、「呼びかけボード」がなくても無言集合出来るようにしたい。		
○思いやりの心の育成	・2か月に1度場に応じた言葉使いの指導をする。 ・道徳ノートに着実かつ素直な思いを記入をさせる。 ・縦割り班遊びを月に1度、学年間遊びを学年の思いに応じて交流させる。			・言葉使いに関するアンケートで肯定的に評価する児童・教職員の割合【信野・カ石】 ・「思いやりの心」育成に関する教職員の見取り調査の割合【信野・カ石】	80% 80%	98% 97%	123% 121%	A A				言葉使いについては、丁寧な言葉つかい、場に応じた言葉使いとも良好である。高学年の比較的稳定やかな不意い気や物腰が低学年と中学年に良い影響を与えているようだ。 思いやりの心については、道徳ノートに自分の考えを記入することで自分の姿を振り返り、学びが実生活に生かしやすくなっていることが大きい。	言葉使いの指導は、高学年のリーダー性にまかせず、中学年・低学年とも指導を丁寧に継続させたい。思いやりの心と合わせて、道徳の時間に指導した内容を実生活に生かさせる視点をもって担任が学級経営を進めていきたい。また、場に応じた言葉使いの指導と学年間の遊びを復活することで年度末に向けて思いやりの心と良い言葉使いが続くようにしたい。				
健やかな体の育成	自ら目標を持ち、進んで体力の向上、健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる			○体力の向上	・毎週月、水、金曜日にランランタイム(業間運動)を実施する。 ・新体力テスト結果、数値の低い種目に特化した取り組む。 ・水泳記録会、マラソン大会では、自己目標を設定させて目標達成に向けて取り組ませる。	・新体力テストの分析に基づく取り組みの結果、前年度全国平均値を上回る児童の割合【梅田】 ・自己目標を達成した児童の割合【信野】	60% 70%	46% 90%	77% 129%	C A				・新体力テストで令和4年度の全国平均と比較した結果、甲奴小の課題は「握力」と「長座体前屈」ということが明らかにになった。また、外遊びの奨励の方も各担任が指導しているが、学年・個人差があり体力向上に結びついていない実態がある。 ・水泳の自己目標の達成率は高い結果となった。今年、少雨で気温が高いことが、プール利用頻度が高いものとなり好結果を生む土壌となった。さらに、児童の設定の目標によって指導内容を個別最適にしたことが功を奏したと言える。	・握力については「ランランタイム」や各学級の体育の授業で、鉄棒にぶら下がったり、板をつかんだりする活動に取り組む。長座体前屈については、柔軟性を向上させるダンスを「ランランタイム」に踊ることで柔軟性の向上を図る。そして、記録を週に1回は測定して、児童一人ひとりに数値の向上を実感させ、児童が主体的に取り組めるよう工夫する。 ・気温が下がった時期にマラソンへ向けた個人目標を考えさせたい。目標は、教室ではなく、廊下にはりだし、児童がお互いに励まし合えるものにしたい。また、新型コロナウイルスとインフルエンザの流行には最大限注意を払いたい。		
		○健康的で規則正しい生活の実践	・食の大切さ、基本的な生活習慣確立の大切さを年間6回指導する。 ・ノーマディアデーの毎月実施。改善点を基本的な生活習慣の指導に活かす。	・食生活、基本的な生活習慣に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【加美川・柚木】 ・ノーマディアデーに関するアンケートで肯定的に評価する児童の割合【加美川・柚木】	85% 85%	85% 96%	100% 113%	A A				・メディアに関する項目とその他の項目の達成度の平均は、80%、88%であり、メディアに関する時間は気を付けて生活していても守ることがより難しく、メディアの依存性の影響が考えられる。その他、生活習慣にかかわる項目は概ね決めた時間を守って生活できている。 ・ノーマディアでは、どの学年も前向きに取り組んでいる。児童の振り返りも「最後まで諦めずにがんばった」や「テレビを見なくても楽しかった」など肯定的な言葉がみられる。	・メディア時間やストップ9のメディアコントロールの課題と生活リズムの乱れとのつながりや、健康課題の改善への見通しを含めた健康指導を、保健だよりや保健体育委員会との連動などで行う。それによって、目的意識を持ち主体的に取り組みが進むようにすることで、自己肯定感や自己有用感につなげる。また、メディア時間に関して20～180分と幅が大きく保護者からも多すぎるのではという声があったため、家の方針を取り入れた時間設定を行う。 ・月に1度の取り組みに前向きに取り組んでいる児童が多いことから、引き続き継続して行い、メディアとの距離を調節し、家族のコミュニケーションの場として取り組みを進める。				
		信頼される学校	安全・安心で信頼される学校をめざす	○危機管理の徹底と指導力の向上	・危機管理対策研修を学期に1回以上行う ・危機管理体制について、保護者アンケートでの、肯定的評価【教頭】 ・感染症対策等を含めた危機管理体制の充実 ・働き方改革による「子どもと向き合う時間」の確保 ・授業研究等による指導力の向上 ・コミュニティ・スクールの推進	・危機管理対策研修を学期に1回以上行う ・危機管理体制について、保護者アンケートでの、肯定的評価【教頭】 教職員アンケートでの、肯定的評価【教頭】 ・指導力の向上について、児童・保護者アンケートでの、肯定的評価【教頭】	85% 85% 85%	108% 117% 104%	127% 138% 122%	A A A				・危機管理対策研修を学期に1回以上行うことについては各担当者を決め主体的な研修を計画通り100%行うことができた。ロールプレイ研修も行った。危機管理体制についての保護者アンケートは、肯定的評価が83.3%で、昨年に引き続き低かった。これは、校門がなくいつでもだれでも学校に入れる状況があることで不安を感じておられる部分が大きいと思われる。 ・コミュニティースクール立ち上げの準備と研修については、すでに準備会を行うなど計画的に取り組んでいる。夏季休業中には昨年に引き続き市教委山本指導主事を招聘して研修を進めている。教職員のコミュニティースクールについての理解度のアナケート結果は、100%であった。 ・指導力の向上については、保護者のアンケートでは「学習のルールが守られた中で授業が行われている。」については100%の肯定的評価。「子どもは、授業が分かりやすいと言っている。」については、89.6%の肯定的評価であった。「子供は、家庭学習や自主学習を進んでいる。」の家庭学習・自主学習の項目については、77.1%と肯定的回答が少なく、改善が必要である。	・危機管理対策研修については工夫しながら確実に行う。計画的に行う。また安心で安全な学校を目指し、今年も昨年に引き続きPTAの改善要望で校門設置をお願いをしている。現在は、センサーを設置し、来校などがあつたら職員室から必ず確認に出るなど現段階でできることなどの試行錯誤をしている。更なる見直し・工夫をし、関係機関と連携を取り、できる限りの対策を講じながら、安心・安全な学校づくりに努めてきたい ・コミュニティースクールについては、今後とも準備会を進めていくがその会の報告をしっかりと教職員にも行い、情報を共有して来年度の本格実施に備えていきたい。また、先行実施の学校の取り組みやいろいろな情報を収集し、円滑にスタートが切れるようにしていきたい。		

(自己評価) 達成度＝達成値÷目標値 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60